

今週の話題：

<ミャンマーにおけるポリオ根絶への進展状況、1996年 -1999年>

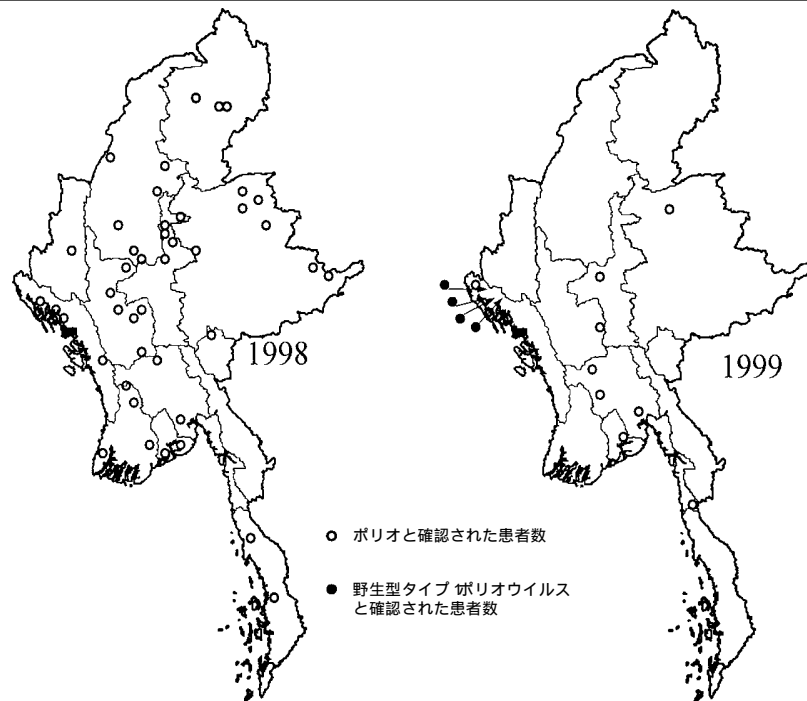
ポリオ流行国のバングラデッシュとインドに隣接しているミャンマーでは、ポリオ根絶への努力を強化してきている。1996年には、野生型の1型の1種、3型の2種が分離され、これを契機に急性弛緩性麻痺（AFP）監視機関が設立された。

定期の予防接種：1978年に予防接種拡大プログラムが開始され、1990年には全ての小児へのワクチン投与が目標とされた。1991年以降には、3回の経口ポリオワクチン（OPV3）が5歳以下の80-90%に行われたと報告されたが、実際はそれより低かった。政府はOPV3施行率を1995年84%、1997年90.3%と報告したが、実際は79%および81.6%であった。1997年のユニセフの調査では、国境や山岳地域では45%から65%と低率であった（詳細はWER参照）。また、1996年Rakhine州の調査では、19から30%と低かった（政府は78.9と75.2%と報告）。この地域差は、交通手段に乏しく、住民文化と生活習慣の差や知識不足が原因と考えられる。

国の予防接種デーと掃討作戦：5歳以下の小児を対象とし、95%にされ、1996年以降は隣接国と共同して行われている。掃討予防接種キャンペーンは、1999年秋に、少数民族、移動民族などの未接種や感染危険地域を含む91万7千の小児を対象に予定されている。

急性弛緩性麻痺（AFP）監視：1996年に臨床家と公衆衛生スタッフから成る監視機関が設置された。2千の保健センターと病院が参画し、定期的な週報と、大病院のスタッフ訪問を行っている。1999年前半以降、この機関の活動対象は麻疹および破傷風へ拡大された。99年1から9月の92例のAFPのうち、67%が2回糞便検査が施行され、また40%が追跡調査され、8%が死亡、35%が麻痺の遺残を認めている。

図1 ミャンマーにおける臨床的・ウイルス学的に確認されたポリオ発症例の分布
1998年 -1999年^a



^a 1999年10月15日現在のデータ

地図 1: ミャンマーにおける臨床的・ウイルス学的に確認されたポリオ発症例の分布、1998年 -1999年。バングラデッシュに隣接する Rakhine州の 4 AFP児から野生型 1型が分離された。

○ ; ポリオと確認された患者数、 ● ; 野生型タイプ 1ポリオウイルスと確認された患者数。

表 1 ミャンマーにおける急性弛緩性麻痺 (AFP) とポリオ確認症例、1995年 - 1999年については、WER 参照。

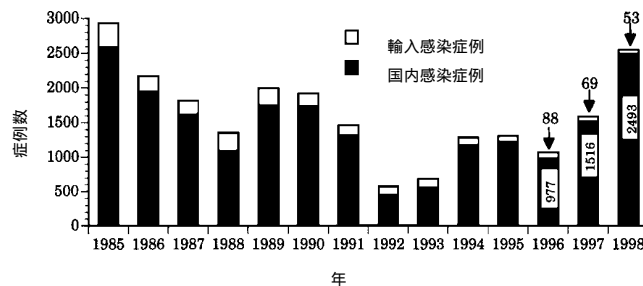
<日本における腸炎ビブリオ、1996年 -1998年>

1996年には 46327例 1217件の食中毒の発生があり、88%起因菌が同定され、サルモネラ、病原性大腸菌に次いで腸炎ビブリオは 3位であったが、1998年には 2倍の患者数となり第 1位となった。月間では、7月から 9月に集中し、8月にピークがある。新潟県 (ゆでたカニ)、滋賀県 (仕出し弁当) での大流行が報告されている。血清型が O4:K8から O3:K6 さらには O4:K68の流行へと変化しており、アジア、米国でも同様である。

表 1 1996年 -1998年の日本の病原細菌による食中毒流行数と患者数

図 2 県立・市立衛生研究所による 1996年 -1998年の日本の腸炎ビブリオ分離数の月次報告については、WER参照。

図 1 県立・市立衛生研究所による 1985年 -1998年の日本の腸炎ビブリオ分離数の年次報告^a



^a データは、1999年 5月 2日以前に受理された報告に基づく

1985年から 1992年にかけて低下したが、その後は再び増加している。

流行ニュースの続報

インフルエンザ

カナダ、フランス、スイス、英国、アメリカ合衆国で 1999年 10月 11日から 20日にかけて A型および B型ウイルスが確認された。

流行ニュース

ザンビアにおけるコレラ

10月末にザンビア厚生省が Chibombo 地区の急性下痢症をコレラと確認した。初発患者は、9月末に Lukanga 湿地の漁場へ行き、帰村後に発症した。政府は迅速に医療チームを派遣し、流行予防キャンペーンを行った。同湿地を訪れた 9症例が確認され、6名が死亡した。

(本田順子、多淵芳樹、宇佐美眞)